

主 文

本件上告を棄却する。

当審における訴訟費用は被告人の負担とする。

理 由

被告人及び弁護人萩沢清彦の上告趣意は、被告人は警察で自白を強制された旨主張するけれども、第一審判決が証拠に引用したのは被告人に対する検察官の第一、二回供述調書であり、該供述調書の任意性については争いが無いところであるから、違憲の主張はその前提を欠くものであり、その他は事実誤認、証拠の取舍判断の不当を主張するに過ぎないもので、いずれも刑訴四〇五条の上告理由に当たらない。また記録を調べても同四一條を適用すべきものとは認められない。

よつて同四一條、三八六条一項三号、一八一條により裁判官全員一致の意見で主文のとおり決定する。

昭和二八年二月一七日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	霜	山	精	一
裁判官	栗	山		茂
裁判官	小	谷	勝	重
裁判官	藤	田	八	郎
裁判官	谷	村	唯	一 郎